

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Human Hypertension in press 2009	Haplotype-based case-control study of receptor (calcitonin) activity modifying protein (RAMP) 1 gene in Cerebral Infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
Clinical Biochemistry in press 2009	Haplotype-Based Case-Control Study Between Human Aprinic/apyrmidinic Endonuclease I/Redox Effector Factor-1 Gene and Cerebral Infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hypertension Research in press 2009	Purinergic receptor P2Y, G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene is associated with cerebral infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Circulation Journal in press 2009	Association of the purinergic receptor P2Y, G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene with myocardial infarction in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科
ホルモンと臨床増刊号「内分泌ク リニカル・カンファランス」 in press 2009	同一 exon に変異を認めた compound ヘテロ接合体の Gitelman 症候群の一例。	中山 智祥	臨床検査医学科
血栓と循環。メディカルレビュー 社 16(3): 258-259, 2008	循環器疾患に関与するプロスタサイクリン (PGI ₂) の合成 酵素遺伝子。連載「プロスタサイクリン up to date」	中山 智祥	臨床検査医学科
Arterial Stiffness 動脈壁の硬 化と老化(メジカルビュー社) 14: pp92-93, 2008	プロスタサイクリン誘導体ベラプロストナトリウムとアン ジオテンシン II レセプターブロッカーテルミサルタンの併 用は高齢高血圧脳梗塞患者の arterial stiffness の進行 を防ぐ。	中山 智祥	臨床検査医学科
高血圧(上)【第4版】・日本にお ける最新の研究動向。日本臨床 in press 2009	CRLR (Calcitonin-Receptor-like Receptor) 遺伝子	中山 智祥	臨床検査医学科
中央区医師会雑誌 22: 38-49, 2009	わかりやすい遺伝子や多型の話-本態性高血圧症になりや すい遺伝要因について-	中山 智祥	臨床検査医学科
Therapeutic Apheresis and Dialysis in press 2009	Peritonitis associated with Pasteurella multocida: Molecular evidence of zoonotic etiology	里村厚司	臨床検査医学科
手術 62(1): 41-45, 2008	特集 肝切除 - 合理性の追求 尾状葉合併前区域切除	中山壽之、高山忠利	消化器外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Gastroenterology 14(5): 685-692, 2008	Surgical treatment of hepatocellular carcinoma: Evidence-based outcomes	Yamazaki S, Takayama T	消化器外科
Journal of periodontology 79(2): 348-354, 2008	Short-term effects of rhBMP-2-enhanced bone augmentation beyond the skeletal envelope within a titanium cap in rabbit calvarium.	Hasegawa Y, Sato S, Takayama T, Murai M, Suzuki N, Ito K.	消化器外科
Annals of Surgical Oncology 15(4): 972-978, 2008	Early hepatocellular carcinoma: pathology, imaging, and therapy.	Takayama T, Makuuchi M, Kojiro M, Lauwers GY, Adams RB, Wilson SR, Jang HJ, Charnsangavej C, Taouli B.	消化器外科
annals of Surgery 247(5): 766-770, 2008	Bioresorbable membrane to reduce postoperative small bowel obstruction in patients with gastric cancer : a randomized clinical trial.	Hayashi S, Takayama T, Masuda H, Kochi M, Ishii Y, Matsuda M, Yamagata M, Fujii M.	消化器外科
Journal of cancer reserch and clinical oncology 134(12): 1319-1323, 2008	Clinical identification of colorectal cancer patients benefiting from adjuvant uracil-tegafur (UFT): a randomized controlled trial.	Fujii M, Takayama T, Kochi M.	消化器外科
International Journal of Clinical Oncology 13(3): 201-205, 2008	Chemotherapy for advanced gastric cancer: ongoing phase III study of S-1 alone versus S-1 and docetaxel combination (JACCRO GC03 study)	Fujii M	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 69(7): 1717-1720, 2008	自然消失した進行大腸癌の1例	東風 貢, 山家広子, 海賀照夫, 大久保力, 藤井雅志, 高山忠利	消化器外科
日本臨牀 66(増刊号 5): 285-289, 2008	一胃癌: 基礎・臨床研究のアップデート— IX 治療— 現状・動向・標価— 進行中の大規模臨床試験の概要 日本ACTS-GCsudy iS-1 vs surgery alone	藤井雅志, 東風 貢, 高山忠利	消化器外科
外科 70(8): 889-892, 2008	外科医のための臨床研究講座 第4回 脱コミックオペラ— 『Lancet』から外科医への批判	中山壽之, 高山忠利	消化器外科
手術 62(1): 1199-1205, 2008	特集肝胆脾手術 術中トラブル回避法・対処法—こんなときどうする 肝実質切離の際の出血 回避と対処	榎垣時夫, 高山忠利	消化器外科
外科 70(9): 927-931, 2008	【特集 術後胆道合併症の防止とその対策】 悪性疾患 肝細胞癌に対する肝切除	大久保貴生, 高山忠利	消化器外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Transplantation 86(7): 1010-1011, 2008	Transplantation-Related Thrombotic Microangiopathy Triggered by Preemptive Therapy for Hepatitis C Virus Infection	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M	消化器外科
外科 70(12): 1355-1359, 2008	処置と小手術のコツと合併症 処置各論 浣腸および高圧浣腸	梶原崇弘、高山忠利	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreatic Surgery	Macroscopic portal vein tumor thrombi of liver metastasis from colorectal cancer.	Oikawa T, Takayama T, Okada S, Kamo T, Sugitani M, Sakamoto M.	消化器外科
癌と化学療法 35(13): 2421-2423, 2008	Cisplatin, Epirubicin, 5-Fluorouracil 併用療法 (CEF) が奏効した高齢者の胆嚢癌肝転移の1例	吉田 直、東風 貢、舟田知也、間宮孝夫、大久保力、海賀照夫、高山忠利	消化器外科
癌と化学療法 35(13): 2429-2432, 2008	FOLFOX4 療法が奏効したS状結腸癌腹膜播種転移の1例	吉田 直、東風 貢、新出 理、渡邊慶史、間宮孝夫、望月 晋、大久保貴生、高山忠利	消化器外科
Liver Transplantation 15(1): 115-116, 2009	Simplified technique for one-orifice vein reconstruction in left-lobe liver transplantation	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M	消化器外科
Journal of Infection and Chemotherapy 15(1): 34-38, 2009	Systemic use of antibiotics does not prevent postoperative infection in elective colorectal surgery: a randomized controlled trial	Sato T, Takayama T, Fujii M, Song K, Matusda M, Higaki T, Okada S	消化器外科
year note Selected Articles 主要病態・主要疾患の論文集 2008-2009: 1603-1619, 2008	睡眠障害の診断と治療	内山 真	精神神経科
臨床睡眠学 66: 11-20, 2008	睡眠障害の概念と国際分野	内山 真	精神神経科
東京精神医学会誌 25(1): 21-25, 2008	Huntington病に伴う幻覚妄想状態にRisperidoneが奏効した1例	降旗隆二、久保英之、鈴木正泰、松崎大和、内山 真	精神神経科
医薬ジャーナル 41(5): 110-114, 2008	睡眠薬の適正使用と服薬指導	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
時間生物学辞典：114-115, 2008	コンスタントルーチン	内山 真	精神神経科
時間生物学辞典：116-117, 2008	脱同調プロトコール	内山 真	精神神経科
時間生物学辞典：118-119, 2008	時間隔離実験	内山 真、他	精神神経科
時間生物学辞典：310-311, 2008	睡眠薬とリズム	内山 真	精神神経科
SLEEP31(5)：645-652, 2008	Associations of Usual Sleep Duration with Serum Lipid and Lipoprotein Levels	Makoto Uchiyama, et al	精神神経科
臨床麻酔32(5)：885-893, 2008	睡眠を科学する	内山 真	精神神経科
気分障害：253-260, 2008	時間生物学	内山 真、他	精神神経科
精神医学対話：373-392, 2008	睡眠障害 生物学的背景を中心に	内山 真	精神神経科
脳を知る・創る・守る・育む10：93-124, 2008	脳を守る	内山 真	精神神経科
最新精神医学 13(4)：347-353, 2008	高齢者の睡眠障害	内山 真	精神神経科
ねむりと医療 1(1)：巻頭言, 2008	『ねむりと医療』の創刊にあたって	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ねむりと医療1(1): 1-4, 2008	不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム	内山 真	精神神経科
ねむりと医療1(1): 40-42, 2008	ねむりの達人がお応えしますー Q&A 第1回 高齢者の睡眠障害にどう対応するか?	内山 真	精神神経科
ねむりと医療1(1): 43-45, 2008	睡眠不足が代謝と内分泌機能に与える影響	内山 真	精神神経科
SLEEP AND BIOLOGICAL RHYTHMS6(3): 127, 2009	PREFACE	Makoto Uchiyama	精神神経科
心療内科12(5): 341-344, 2008	睡眠障害ー総論	内山 真	精神神経科
日本医師会雑誌 137(7): 1393-1406, 2008	眠りと健康をめぐって	内山 真、他	精神神経科
日本医師会雑誌 137(7): 1412-1416, 2008	睡眠障害の診断の進め方	内山 真	精神神経科
メディコピア 49 睡眠と健康: 72-85, 2008	健康的な睡眠のために	内山 真	精神神経科
臨床のあゆみ 78: 21, 2008	ナルコレプシーの正確な診断と最適な治療にむけて	内山 真	精神神経科
環境と健康21(4): 404-414, 2008	脳を休ませるしくみ	内山 真	精神神経科
こころの科学143: 32-39, 2009	睡眠薬の使用法とそのはたらき	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別冊 日本臨牀 呼吸器症候群(第2版)(II): 524-526, 2009	睡眠時パニック障害	今野千聖、鈴木正泰、金野倫子、 高橋 栄、内山 真	精神神経科
別冊 日本臨牀 呼吸器症候群(第2版)(II): 548-552, 2009	夜驚症と睡眠時遊行症	金野倫子、内山 真	精神神経科
社会精神医学: 246-257, 2009	睡眠障害	内山 真	精神神経科
The Mainichi Medical Journal 5(3): 145, 2009	高齢者の睡眠覚醒障害に光とメラトニンを	内山 真	精神神経科
ペインクリニック 30(5): 626-633, 2009	痛みと睡眠	内山 真	精神神経科
医療従事者のための補完・代替医 療: 328-334, 2009	光療法	内山 真	精神神経科
Sleep Med Clinica 4: 195-211, 2009	Non-24-Hour Sleep-Wake Syndrome in sighted and Blind Patients	Makoto Uchiyama, Steven W. Lockley	精神神経科
Psychiatry Research 168: 57-66, 2009	Coping strategies and their correlates with depression in the Japanese general population	Yukihiro Nagase, Makoto Uchiyama, Yoshitaka Kaneita, Lan Li, Tatsuhiko Kaji, Sakae Takahashi, Michiko Konno, Kazuo Mishima, Toru Nishikawa, Takashi Ohida	精神神経科
総合病院精神医学 21(1): 24-31, 2009	高齢者のレム睡眠行動障害	内山 真、金野 倫子	精神神経科
BRAIN and NERVE 61(5): 549-557, 2009	Restless legs syndrome の治療	金野 倫子、内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を入力すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroscience Research 63: 115-121, 2009	Time estimation during sleep relates to the amount of slow wave sleep in humans	Makoto Uchiyama, et al	精神神経科
最新精神医学 14(5): 449-458, 2009	睡眠薬の効用と限界	内山 真	精神神経科
実験 治療 659: 46-51, 2009	睡眠障害	内山 真	精神神経科
Curr Med Res Opin 24: 307-17, 2008	An international survey of sleeping problems in the general population.	Leger D, Poursain B, Neubauer D, Uchiyama M	精神神経科
Schizophr Res 104: 153-64, 2008	Association of SNPs and haplotypes in APOL1, 2 and 4 with schizophrenia.	Takahashi S, Cui YH, Han YH, Fagerness JA, Galloway B, Shen YC, Kojima T, Uchiyama M, Faraone SV, Tsuang MT	精神神経科
J Neurosci 28: 10145-50, 2008	Sleep accelerates the improvement in working memory performance.	Kuriyama K, Mishima K, Suzuki H, Aritake S, Uchiyama M	精神神経科
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 259: 186-94, 2009	Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia: A large sample study using a newly developed digital computerized system.	Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoda M, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Katayama S, Kawahara R, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, Motoshita M, Ohta K, Uchiyama M, Kojima T	精神神経科
脳と精神の医学 20(1): 35-41, 2009	統合失調症の中間表現型としての探索眼球運動	高橋 栄, 小島卓也, 鈴木正泰, 内山 真	精神神経科
Pharma Medica 27(6): 99-107, 2009	プロナンセリンの今後の可能性を探る	高橋 栄、他	精神神経科
Psychiatry Clin Neurosci 62: 396-403, 2008	The relationship between exploratory eye movement, P300, and reaction time in schizophrenia.	Takahashi S, Tanabe E, Sakai T, Matsuura M, Matsushima E, Obayashi S, Kojima T.	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychiatry Clin Neurosci 62:487-493, 2008	Impairments of exploratory eye movement in schizophrenic patients and their siblings.	Takahashi S, Tanabe E, Yara K, Matsuura M, Matsushima E, Kojima T	精神神経科
Cardiac Practice20(1)21-25, 2009	【睡眠時呼吸障害と循環器疾患】睡眠呼吸障害の病態とその診方	赤柴恒人	睡眠センター
Cardiac Practice20(1)21-25, 2009	【睡眠時呼吸障害と循環器疾患】睡眠呼吸障害の病態とその診方	赤柴恒人	睡眠センター
最新医学 64(1) 42-49, 2009	【睡眠時無呼吸-最新の進歩と展望-】CPAP 治療と治療アドヒランス (adherence) 向上の工夫	赤柴恒人	睡眠センター
診断と治療 97(1) 139-147, 2009	【実地医家のための呼吸管理】臨床場面別の呼吸管理 睡眠時無呼吸症候群	赤柴恒人	睡眠センター
日大医学雑誌 68(1) 67-72, 2009	睡眠時無呼吸症候群の臨床	赤柴恒人	睡眠センター
日本臨床 S 491-492, 2009	【呼吸器症候群(第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】呼吸不全、換気異常 睡眠呼吸障害 上気道抵抗症候群	赤柴恒人	睡眠センター
Respirology14(1) 1-13, 2009	Predicting optimal continuous positive airway pressure in Japanese patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Akahoshi T, Akashiba T, et. al	睡眠センター
呼吸器科 15(3) 208-214, 2009	【呼吸器疾患診療ガイドラインのエッセンス】睡眠時無呼吸症候群 診断と治療のためのガイドライン	赤柴恒人	睡眠センター
月刊シブメント 2(6) 92-95, 2009	【COPD 今注目される呼吸器疾患】COPD の非薬物療法 生活指導およびリハビリテーション	赤柴恒人	睡眠センター
呼吸と循環 57(8) 851-855, 2009	Current Opinion COPDにおける睡眠呼吸障害	赤柴恒人	睡眠センター
形成外科	生体肝移植術における肝動脈再建	竹内正樹	形成外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Osteoporosis Japan	脊椎インスルトウルメンテーションを併用した腰椎固定術後の閉塞骨粗鬆症による椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科
Osteoporosis Japan	脊椎インスルトウルメンテーションを併用した腰椎固定術後の閉塞骨粗鬆症による椎体骨折の危険因子とその予防	徳橋泰明	整形外科
Photomedicine and Laser Surgery	The minimum influence for murine nonmamal joint tissue by novel bactericidal treatment and photodynamic therapy using na-pheophoride a for septic arthritis.	Iriuchishima T	整形外科
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy	Intercondylar roof impingement pressure after anterior cruciate ligament reconstruction in a porcine model	Iriuchishima T	整形外科
Anticancer Research	A comparative study for wide excision of malignant tumors distal to S2	Oosaka S	整形外科
Orthopedics	Subsidence of metal interbody cage after posterior lumbar interbody fusion with pedicle screw fixation.	Tokuhashi Y	整形外科
Orthopedics	Radiographic evaluation of osteoporotic spines using cortical bone of the lumbar pedicle	Matsuki K	整形外科
Spine	Outcome of treatment for spinal metatases using scoring system for preoperative evaluation of prognosis.	Tokuhashi Y	整形外科
Endocrine.	Haplotype-based case study of human CYP4A11 gene and cerebral infarction in Japanese subject.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Journal of Hypertension.	Association of TNFRSF4 gene polymorphisms with essential hypertension.	Mashimo Y, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Endocrine Journal.	Case-control study of the role of the Gitelman' s syndrome gene in essential hypertension.	Aoi N, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Am J Hypertens.	Association between fatty acid binding protein 3 gene variants and essential hypertension in humans.	Ueno T, Soma M 他	総合科 (内科担当)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res.	A haplotype-based case-control study examining human extracellular superoxide dismutase gene and essential hypertension.	Naganuma T, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Hypertens Res.	Haplotype-based case-control study of the human CYP4F2 gene and essential hypertension in Japanese subjects.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Am J Hypertens.	A haplotype of the CYP4F2 gene is associated with cerebral infarction in Japanese men.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Mol Genet Metab.	A haplotype of the CYP4F2 gene associated with myocardial infarction in Japanese men.	Fu Z, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Hereditas.	Association of extracellular superoxide dismutase gene with cerebral infarction in women: a haplotype-based case-control study.	Nakayama T, Soma M 他	総合科 (内科担当)
Blood Purification 26, 196-203, 2009	Circannual rhythm of laboratory test parameters among chronic haemodialysis patients	Mitsuru YANAI	総合科 (内科担当)
Int Immunopharmacol.	Inhibitory effects of parthenolide on antigen-induced microtubule formation and degranulation in mast cells.	Miyata N, Gon Y	総合科 (内科担当)
Respirology.	Analysis of gene expression in human bronchial epithelial cells upon influenza virus infection and regulation by p38 mitogen-activated protein kinase and c-Jun-N-terminal kinase.	Hayashi S, Jibiki I, Asai Y, Gon Y	総合科 (内科担当)
Allergol Int.	Toll-like receptors and airway inflammation.	GON Y	総合科 (内科担当)
Allergol Int.	Viral infection in asthma.	Hashimoto S, Matsumoto K, Gon Y	総合科 (内科担当)
Endocrine.	Human Uncoupling Protein 2 and 3 Genes Are Associated with Obesity in Japanese.	Kosge K 他	総合科 (内科担当)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肥満研究 14 : 36-41 ; 2008. 2	小児肥満における体組成と安眠時エネルギー消費量	黒森 由紀, 中山 弥生, 岩田富士彦, 岡田 知雄, 原田研介, 麦島 秀雄, 斎藤恵美子, 原 光彦	小児科
日本小児腎臓病学会雑誌 21 (1) ; 2008. 4	糸球体 charge barrier 機能の再検討	斎藤 宏, 高橋 昌里, 土屋 達行, 長田 道夫, 楊国昌, 根東 義明, 松山 健, 関根 孝司, 五十嵐 隆	小児科
心臓 40 : (6) 513-517; 2008. 6	小児期のメタボリックシンドロームと心血管病変	岡田 知雄, 安部百合子, 金丸 浩, 鮎沢 衛, 原光彦	小児科
日大医学雑誌 68 (1) : 11-15; 2008	低分子量ヘパリン薬 (ダルテパリン) を併用した川崎病治療法開発の予備的検討	稲毛 康司, 大島 暢, 斎藤 勝也, 長谷川真紀, 林利佳, 阿部 修, 石川 央朗, 吉野 弥生, 橋本 光司, 淵上 達夫, 宮下 理夫, 金丸 浩, 鮎沢 衛, 麦島 秀雄	小児科
日大医学雑誌 67 (6) : 356; 2008	進行性腎障害の治療のための TGF- β 1 プロモーターを標的とした遺伝子制御薬であるピロールイミダゾールポリアミドの開発	松田 裕之, 福田 昇, 上野 高浩, 田平 佳子, 菅 弘人, Wen Zhang, 板東 俊和, 杉山 弘, 齊藤 穎, 松本 統一, 麦島 秀雄, 芹江 和夫	小児科
Archives Disease of Childhood Fetal and Neonatal Edition 93 : 14-19; 2008. 1	Umbilical cord milking reduces the need for red cell transfusions and improves neonatal adaptation in infants born at less than 29 weeks' gestation: a randomised controlled trial	Hosono S, Mugishima H, Fujita H, Hosono A, Minato M, Okada T, Takahashi S, Harada K	小児科
Circulation Journal 72 : 274-280; 2008. 2	Association of Sinus Node Dysfunction, Atrioventricular Node Conduction Abnormality and Ventricular Arrhythmia in Patients With Kawasaki Disease and Coronary Involvement	Sunitomo N, Karasawa K, Taniguti K, Ichikawa R, Fukuhara J, Abe O, Miyashita M, Kanamaru H, Ayusawa M, Harada K	小児科
Clin Pediatr Endocrinol (4) : 113-119; 2008. 5	Pathogenic Characteristics at Diagnosis in Young Children with Type 1 Diabetes Presenting Prior to 5 Years of Age	Urakami T, Suzuki J, Yoshida A, Saito H, Wada M, Takahashi S, Mugishima H	小児科
Journal of Perinatology 28 : 335-340; 2008. 5	Low-density lipoprotein profile changes during the neonatal period	Fujita H, Okada T, Inami I, Makimoto M, Hosono S, Minato M, Takahashi S, Mugishima H, Yamamoto T	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を入力すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Pediatrics (3) : 202-205; 2008. 8	The relationship between drug treatment and the clinical characteristics of febrile seizures	Haruyama W, Futigami T, Noguti Y, Endou A, Hashimoto K, Inamo Y, Fujita Y, Takahashi S, Mugishima H	小児科
World Journal of Pediatrics (3) : 202-205; 2008. 8	The relationship between drug treatment and the clinical characteristics of febrile seizures	Haruyama W, Futigami T, Noguti Y, Endou A, Hashimoto K, Inamo Y, Fujita Y, Takahashi S, Mugishima H	小児科
Pediatrics International 50:306-311; 2008	Effect of hemoglobin on transfusion and neonatal adaptation in extremely low-birthweight infants	Hosono S, Mugishima H, Kitamura T, Imai I, Fujita H, Hosono A, Minato M, Okada T, Takahashi S, Harada K	小児科
DIABETES RESEARCH AND CLINICAL PRACTICE 473-476; 2008	Incidence of children with slowly progressive from of type 1 diabetes detected by the urine glucose screening at schools in the Tokyo Metropolitan Area	Urakami T, Suzuki J, Yoshida A, Saito H, Mugishima H	小児科
Pediatrics International 50 : 640-643; 2008	Predictive factors for survival for out-born infants born between 23 and 24 weeks of gestation in the post-surfactant era: Fourteen years' experience in a single neonatal care unit. 1987-2000	Hosono S, Ohno T, Kimoto H, Shimizu M, Takahashi S, Harada K	小児科
Biol Pharm Bull 31 (3) : 391-394; 2008. 3	Treatment of Ewing's Sarcoma Using an Antisense Oligodeoxynucleotide to Regulate the Cell Cycle	Asami S, Chin M, Shichino H, Yoshida Y, Nemoto N, Mugishima H, Suzuki T	小児科
Pediatrics International 50 : 235-237; 2008	Hypercalcemia induced by 13 Cis-retinoic acid in patients with neuroblastoma	Mugishima H, Chin M, Suga M, Shichino H, Ryo N, Nakamura M, Harada K	小児科
Heart Rhythm 5 : 496-7; 2008	Adenosine Triphosphate Terminates Bidirectional Ventricular Tachycardia in a Patient with Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia	Sunitomo N, Sakurada H, Mugishima H, Hiraoka M	小児科
Heart Rhythm 5:498-499:2008	Calcium channel blocker and adenosine triphosphate terminate bidirectional ventricular tachycardia in a patient with Andersen-Tawil syndrome	Sunitomo S, Shimizu W, Taniguti K, Hiraoka M	小児科
Intensive Care Med 34:109-115; 2008	Hyperglycemia and lipopolysaccharide decrease depression effect of interleukin 8 production by hypothermia: an experimental study with endothelial cells	Noda A, Kinoshita K, Sakurai A, Matsumoto T, Mugishima H, Tanjho K	小児科
Journal of Cellular Physiology 215 (1) : 210-222 : 2008	Mature Adipocyte-derived dedifferentiated fat cells exhibit multilineage potential	Matsumoto T, Kano K, Kondo D, Fukuda N, Iribe Y, Tanaka N, Matsubara Y, Sakuma T, Satomi A, Otaki M, Ryu J, Mugishima H	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biological and Pharmaceutical Bulletin 36 (6) : 1071-1074; 2008	Useful markers for detecting minimal residual disease in cases of neuroblastoma.	Ootsuka S, Asami S, Sasaki T, Yoshida Y, Nemoto N, Shichino H, Chin M, Mugishima H, Suzuki T.	小児科
JOURNAL OF PERINATAL MEDICINE 37 : 79-84; 2009	A role of end-tidal CO2 monitoring for assessment of tracheal intubations in very low birth weight infants during neonatal resuscitation at birth	Hosono S, Inami I, Fujita H, Minato M, Takahashi S, Mugishima H	小児科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

計 232 件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 澤 充
管理担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 薬剤部長：丹正 勝久 医学部庶務課長：立石 重美

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課	病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルしており、外来資料については5年間、入院資料については永久保存を原則としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療の研修の実績	当該診療科
	閲覧実績	病歴課
	紹介患者に対する医療提供の実績	庶務課 医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 医事課 薬剤部
体制確保の状況の23及び第1条の11各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための方策の実施状況	薬 剤 部
		従事者に対する医薬品の安全使用のための責任者の配置状況	庶 務 課 薬 剤 部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬 剤 部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶 務 課
		従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長 佐藤 晴男
閲覧担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行 会計課長：大野 修平 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 医学部庶務課長：立石 重美
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件
	その他	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	64.64%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	22,119人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	19,204人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	6,890人	
	D：初診の患者の数	55,381人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11号各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属部員：専任 (1) 名 兼任 (10) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定、平成16年1月改定、平成19年9月改訂、平成20年9月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定、平成17年11月改訂） ・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。 ・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定、平成18年9月改訂） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定、10月改定、平成14年4月改定、平成16年1月改定、平成17年11月改訂、平成18年9月改訂） ・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定、平成16年1月改定、平成17年11月改定） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インシデント・アクシデントレポート運用規則（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定、平成18年9月改定、平成19年9月改定、平成20年9月改訂） ・ インシデント・アクシデントレポートフローチャート（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定） ・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定、平成14年4月改定、平成19年9月改定） <p>⑤ 患者相談窓口運用要項（平成15年10月制定、平成16年1月改定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者相談窓口フローチャート 	

⑥ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は副病院長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部、中央放射線部、臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。</p> <p>① 平成20年6月9日（月）、10日（火）、18日（水）、20日（金） ※第1回医療安全講習会 「苦情（クレーム）事例報告」「身体拘束（抑制）ガイドラインについて」「持参薬の手順書について」</p> <p>②平成20年11月11日（火）、13日（木）、20日（木）、12月8日（月） ※第2回医療安全講習会 「医療手技マニュアルについて」「ダブルバック（トリプルバック）の隔壁開通について」「個人情報保護法に関する留意事項について」「セクシャルハラスメントについて」</p> <p>③平成21年3月10日（火）、12日（木）、13日（金）、16日（月） ※第3回医療安全講習会 「誤投薬防止WGからの報告」「人工呼吸器指示確認書・人口鼻について」「点転倒事故の傾向について」「患者満足度調査の集計結果について」</p>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備： 有 無</p> <p>・インシデント・アクシデント・レポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。</p> <p>②提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディファックスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事件事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。</p> <p>③24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。</p> <p>④医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。</p> <p>⑤専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。</p> <p>⑥「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。</p> <p>⑦可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「緊急症例検討会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	① 有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>・ 基本理念，感染対策の基本方針，感染防止対策委員会について，職員研修について 感染症発生時の報告体制，感染症発生時の対応，閲覧について，その他</p>	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ 院内の感染症情報の共有，感染予防講習会の準備と開催，微量採血のための実例器具の 取扱いについて，採痰ブースの設置及び運用について，ポケットマニュアルの第3版の 改正について，手洗い評価ラウンドの実施，事例検討会，新型インフルエンザ対策（対 応指針）について</p>	
③従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>・ 感染対策指針について，標準予防策-手指衛生-，感染経路別予防策-院内表示の統一 について-，検体の取り扱い-検査結果と治療について-，職業感染防止対策について</p> <p>・ 院内病原菌検出状況と感染対策につて，感染対策問題集，新型インフルエンザの現況 咳エチケットについて</p>	
④感染症の発生状況の報告その他院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (① 有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>①医療安全ポケットマニュアル第4版から第5版への修正</p> <p>・ 当病院で届出が必要な感染症（感染症の分類）</p> <p>「届出フローチャート」に従い，発生時の報告を実施している。</p> <p>「感染症アウトブレイク時の報告・対応」に従い運用している。</p> <p>②標準予防策の基本である手指衛生について啓蒙活動の強化を図った。</p> <p>・ ICLNによる各部署の手洗い評価を6～9月にチェッカー（ブラックライト）とチェック リストを使用して評価を行った。</p> <p>・ 手洗い強化月間を設け，ICCラウンドで手洗いの評価を実施した。</p> <p>・ 手指衛生マニュアルの配布，手洗いのタイミングや方法を記載したポスターの掲示</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持参薬の手順書について ・ ダブルバック（トリプルバック）の隔壁開通について ・ アクシデントから学ぶ誤投薬防止のポイント 	
<p>③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <p>・ 手順書の作成 （ ① 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤管理委員会に手順書を検討・改訂し、医療安全管理委員会で承認された。手順書に従い病棟等における医薬品の管理状況について、巡回・調査・改善を行った。 	
<p>③医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ① 有 ・ 無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デュロテップパッチからのデュロテップMTへの採用切り替えについて ・ メルビン錠とヨード造影剤の相互作用・禁忌について ・ PTPシート誤飲防止対策について ・ 各部門への情報提供並びに情報確認表の提出による周知を行った。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の有効性・安全性に関する事項 ・医療機器の使用法に関する事項 ・医療機器の保守点検に関する事項 ・医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ・医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ・新しい医療機器の導入時の研修 ・ライナックの構造，保守管理，について ・放射線発生装置の安全な取扱いについて 	
<p>③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <p>・計画の策定 (④・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保守点検の計画・実施表作成 ・定期点検（各医療機器マニュアルに沿った期間で行う） ・日常点検（使用前，使用后，修理，使用中等）の実施及び記録 ・ライナック：定期点検 年4回 メーカーに依頼 ・RALS : 定期点検 年4回 メーカーに依頼 	
<p>④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (④・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟巡視を行い，各病棟における医療機器の相談を受け，操作方法の説明，勉強会の依頼，安全情報の伝達を行なっている。また随時安全情報の伝達を医療安全管理室と連携を取りながら行い，安全啓蒙のポスター，チラシ，医療機器ポケットマニュアル等を配布している。 ・メーカーから報告されている改修・注意事項に従い適宜改修等を行い治療計画装置では安全使用を図るため最新のソフトにバージョンアップを行っている。 	